



ICT の活用から ICT の「効果的な」活用へ

ICT を効果的に活用した研究の充実に向けて今年度、実施している主な取組を2つ紹介します。

「ICT を効果的に活用した探究的な学び」についての授業公開

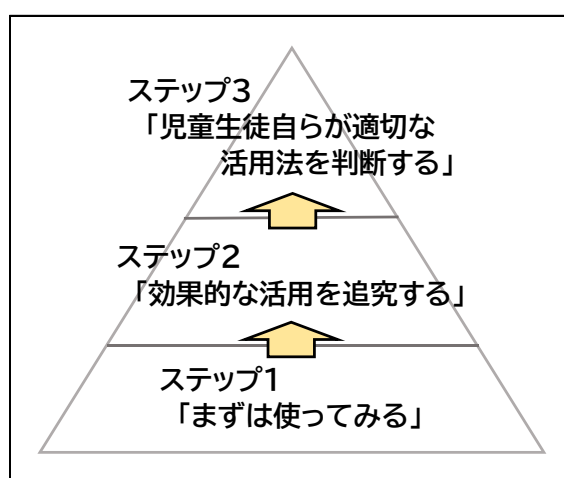
授業での ICT の活用は、一般的に大きく3つの段階に分けられます。第1ステップである「まずは使ってみる」の段階は、ほとんどの学校で行われ、多くの学校では第2ステップである、「効果的な活用を追究する」という段階に入ってきています。（右図参照）

そのような中で、岡山市では昨年に引き続き、小中学校が効果的に ICT を使った授業づくりについての授業公開を行っています。（市内14校）

授業公開では、授業の中で、紙のワークシートを使うか端末を使うか、ツールをどう活用するかを子どもたちが選んだり、一人で考えている子どももいれば、グループで考えている子どもたちもいたりといった、自己調整しながら児童生徒主体で学びを進めている様子が見られました。

さらにここから、第3ステップの「児童生徒自らが適切な活用法を判断」し、「新たな学びのスタイルを模索」する探究的な学びへどう転換できるかがポイントになってきます。

授業の様子は、岡山市教職員専用サイト「明日から、かわら版！」の「事例一覧」に学習指導案、動画等を順次公開していきますので、ぜひご覧ください。



【端末活用のステップ】



文部科学省指定の[校務活用]での生成 AI パイロット校事業

今年度、文部科学省の生成 AI パイロット校事業[校務利用]に平井小学校と浦安小学校が参加し、ともに研究を行っています。

生成 AI の校務利用は、保護者向け文書の素案作成、会議録の要約、アンケートの傾向分析などを瞬時に行える点がメリットです。これにより、業務の負担が軽減され、先生方が子どもと向き合う時間が確保されるとともに教材研究等の本質的な業務に注力できるようになり、働き方改革にも直結すると考えています。(以下参照)



【校務での利活用例】

① 児童生徒の指導に関わる業務の支援（授業準備・部活動・生徒指導等）

授業で取り扱う教材や確認テスト問題のたたき台を作成する、授業での発問に対するシミュレーション相手として活用する、校外学習の実行程のたたき台を作成する 等

② 学校の運営に関わる業務の支援（教務管理・学校からの情報発信・校内研修等）

時間割・授業時数案を作成する、各種お便り（学年・学級だより、給食だより、保健だより等）・通知文・案内文のたたき台を作成する 等

③ 外部対応への支援

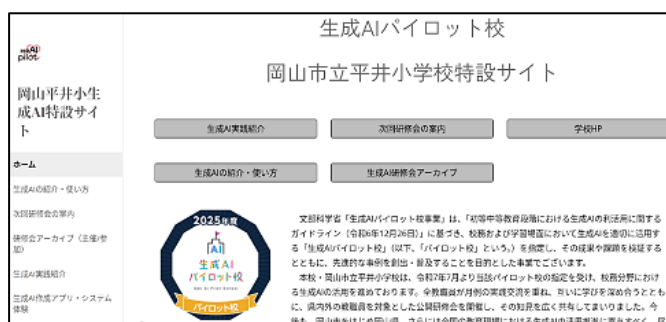
保護者会・授業参観・保護者面談の日程調整に活用する、外部向け講演会のあいさつ文のたたき台を作成する 等

初等中等教育段階における生成 AI の利活用に関するガイドライン(Ver.2.0)より

パイロット校の取組としては、それぞれの学校が現状と課題を挙げ、活動内容を計画し、具体的なプロンプトや生成 AI の活用を通じて業務の所要時間がどの程度低減したか、どのように業務の質が向上したか等を検証しています。また、校内研修では学校 DX 戦略アドバイザーの方より、最新の利用状況や活用事例などを教えていただきました。

両校では取組について、各校のホームページで公開しています。私たちの働き方を変えるヒントが詰まっていますので、ぜひご覧ください。また、来年2月には、取組の成果発表会を計画しています。こちらの研修会に参加いただき、学校における生成 AI の事例をご覧くださいとともに、普及に努めていきたいと考えています。

11月からは、生成 AI の児童生徒による利活用についても開始しており、取組を始めた学校もあります。利用に向けては「明日から、かわら版！」に掲載してある、「生成 AI ガイド【岡山市教育委員会版】ver.1.2」をご覧ください。



岡山市立平井小学校ホームページより



岡山市立浦安小学校ホームページより